

(1)言葉の真価は、誰が言ったかではなく、誰が聴いたかで定まる。中高生がとっておきの言葉を紹介する(A)「私の折々のことばコンテスト」の秀作を読んで、そう思う。今回は3万を超す①オウボ(応募)があつた▼最優秀賞は熊本県の農業高校に通う遠山桃々乃さんの「(2)あんたの根つこ見つけて水やり続けるねん」。大阪市出身。農業を学びたいのに親も先生も賛成してくれない。3年間、一緒に②カダン(花壇)の世話をした用務の男性だけが「自分の根は自分にしかわからへんねや」と③オウエン(応援)してくれた▼意外にも、(3)名言の主は本紙の取材に「そんなこと言うたかな」と失念の④体(てい)。でも遠山さんはその助言を受け止め、いま阿蘇⑤山麓(やんろく)で充実の日々を送る▼「全力で恥をかけ」で佳作に選ばれたのは、⑥サイタマ(埼玉)県の中学生井上真梨子さん。生徒会の役員になれたが、全校集会の司会で失敗する。予定にあった先生の話をいくつか飛ばしてしまった。「落ち込んだけど、生徒会室の黒板に書いてあった⑦センパイ(先輩)の言葉に救われた。恥をバネにしようと思いました」▼神奈川県の高校生坪井菜那子さんは、⑧ソフ(祖父)を亡くした⑨昨夏(さつか)の思いをつづる。母の友人で、津波に親をさらわれた女性からLINEで短文が届いた。「(4)送れる幸せを噛みしめてください」。読んで、愛する家族に別れを告げることの重みを実感したという▼迷い、⑩躓(つまず)き、別れ。10代が選んだ言葉にはどれも物語がある。ひるみながらも全力で人生にぶつかっていく。真剣に悩むからこそ、言葉が心の奥深くまで届く。

〔2018年1月6日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 傍線部(1)の理由を最後の2文を踏まえて、30字程度でまとめよう。

〔答例〕(人生に真剣に悩んだ聴き手にこそ、言葉が心の奥底に届くから。)

問三 傍線部(2)とは何か、文中から漢字2字で抜き出そう↓(農業)

問四 傍線部(3)とは誰か、文中から5字で抜き出そう↓(用務の男性)

問五 傍線部(4)の内容を文中から14字で抜き出そう。

(愛する家族に別れを告げること)

問六 次は(A)とその解説である。( )内に指定字数で適語を書き入れよう。

a 「ごらんになって」 幼稚園の園長先生

空にかかった虹を、「(2字 見て)」ではなく「ごらんになって」と指した園長先生。美しい言葉が、虹をよりいっそう美しく感じさせたのだと思う。

b 「プラスは(4字 マイナス)から書き始める」 友達

いつか実を結ぶという意味と、一本書き加える努力が大切という意味。声をかけてくれた友達のように、同じ言葉でも良い解釈を人に伝えられるようになりた

c 「美しい服は裏地も美しい」 祖母

決勝に進めなかったピアノコンクールで思い出した洋裁師の祖母の言葉。心動かす演奏の裏にあるのは、自分をごまかさない(2字 努力)。私も美しい裏地を編もう。